

厚労省よ、実態を見て

3面

秋田 岐阜

新たに支部発足 住民が地域調査

2面

全厚労ニュース

全 国 労 働 組 合 連 合 会
 厚生連
 〒110- 東京都台東区入谷
 0013 1-9-5
 TEL 03-3874-3591
 FAX 03-3874-3593
 発行日 毎月20日 定価 30円
<https://www.zenkouro.org/>

プレK's オンライン 楽しく交流



全厚労青年委員会では7月31日のK'sオンライン学習会にむけて「プレK's」を5月30日に、14県48名の参加で開催しました。

日本医労連組織共闘局から保科雄治さんが「明日から働きやすくなる3つのポイント」を講演。チャット機能を使って参加者との意見交流も行いながら、リフレッシュのための休暇の重要性や、労働組合の大切さについて話されました。プレK'sの中ではアンケート機能を使った職場の意識調査や、クイズ大会、感想交流を行い、短時間での開催ではありましたが大いに学び、盛り上がりました。

プレK's後の第3回青年委員会では、K'sオンライン学習会本番をより良い集会とするため企画内容を議論しました。

ハラスメント撲滅 “真剣”に

福島、長野、三重に続いて広島厚生連がハラスメント撲滅宣言を発出しました。

広厚労では職場でのハラスメント事例を指摘し、ハラスメント撲滅へのトップメッセージを出すように要求。広島厚生連は「ハラスメント撲滅を組織として真剣に取り組む」こと等ハラスメントに関する行為とその対応について明記した宣言を6月に全支部・職場へ配布しました。

母性保護月間スタート 女性の元気を広めよう

全厚労女性委員会では6〜7月を母性保護月間に設定し、女性がいきいきと健康に働き続けられるよう生理休暇等の権利取得を呼び掛けています。

誰もが健康に働ける職場に

グッズでアピール

男性も育休取りやすく

母性保護とは、子どもを産む・産まないにかかわらず母性によって生じる月経・妊娠・出産などに対する社会的な保障のことです。労働や職場環境が原因で、障害をもたらすことのないよう、生理日の休暇や妊産婦の労働時間を制限し保護していくことが重要です。

全厚労では、女性だけでなく全ての年代・性別を問わず労働者が体調不良で無理をして働くことのないよう、有休取得を推進する月間とし、特別有給休暇での「健康管理休暇」の創設を求める運動も進めています。

今年の母性保護月間アピールグッズに、月間のお知らせと一部権利を記載したメモ帳を作成しました。職場に配布して、いつでもチェックし、必要な時には権利を使っていきましょう！

各県でも独自で様々な取り組みが行われています。秋田ではハンディポーチを作成し、月間の意義を理解してもらえよう組合員全員に配布しました。ポーチのかわいいイラストは応募して頂いた中から採用されました。

三重では、4月にハラスメント撲滅宣言が発出され、妊娠・出産・育児休業に関するハラスメント行為につ

秋田・ハンディポーチ



三重・マグネットクリップ

告知

7月16日にオンラインで全厚労拡大女性部会議を開催します。学習講演は、全厚労女性部で取り組まれた女性労働者アンケートの結果分析や、働くものの権利について学びます。各県の女性部の活動を交流し、オンラインならではの当該地企画も用意しています。ご参加お待ちしております。

いても言及されています。毎年工夫された多彩なアピールグッズから昨年好評だったマグネットクリップの色違い版を作成し、職場の啓発に役立てています。

6月に育児・介護休業法が改正されました。現行1か月前からの申告が2週間前と短縮されたことや、現行育休制度の1歳（最長2歳）までの期間にプラスして出生後8週間以内に4週間までの期間が2回に分割して取得できるようになるなど、男性の育児休業取得促進のため、現行法よりも柔軟に取得できるよう改正されました。新制度は22年4月から段階的に施行されます。全厚労ホームページでは母性保護月間記事内で山厚労組合員から男性の育児休業取得の経験談を寄稿して頂き、掲載しています。育休取得を考え中の方は参考にされてみてはいかがでしょうか。

松崎支部長（後列右から2番目）と役員の方々



岐阜 新支部発足

この一年を振り返り、今思うこと

土岐市立総合病院支部 支部長 松崎 光司

2020年4月1日より土岐市立総合病院はJA岐阜厚生連の指定管理により、「東濃中部医療センター・土岐市立総合病院」となりました。それに伴い岐阜労には土岐市立総合病院支部が発足。今年度新たに支部長になられた松崎光司さんよりこの間の経緯や活動についてご寄稿頂きました。

20年4月より、岐阜労の8つ目の支部として「土岐市立総合病院支部」が発足しました。しかし、活動に必要なものはほとんど揃っておらず、まさに「ゼロ」からのスタートでした。このような状況でしたが、前支部長と前会計のお二人が中心となり、活動に必要な土台を築いて頂いたことで、その年の9月からスムーズに活動を引き継ぐことができました。

そして、岐阜労での活動を振り返って見た時、コロナ禍の影響はやはり大きいものでした。本来の活動が制限される中、この一年がどうだったかというのはいくつかも悪くも判断できないというのが正直な気持ちです。しかし、これまでの活動を振り返ると、岐阜労の印象や

活動がとて活発

中央執行委員会は、毎月開催され、各支部からの要求や問題点を共有し、年3回の団体交渉に向けて積極的な意見交換を行っています。また、学習会への参加もあり、他県の情報や組合活動以外の知識も得ることができました。

看護委員会や女性部会もそれぞれの活動が制限される中、アンケート調査を実施し、現状把握に努めています。

青年・情宣部会は、岐阜労機関誌（KINKA）の発行や初開催の試みとなるオンライン交流会を企画しました。

強力なサポートに感謝

支部発足時におけるサポートからはじまり、これまでたくさん支えてもらいました。疑問や問題点など様々なことに対して、的確なアドバイスや必要な情報などを頂いたことに対して、本当に感謝しております。

岐阜労への思い、など支部役員の見解が紹介されますので紹介します。

秋田 住民が地域をつくる

鹿角・市民町民の会が地域調査報告

去る4月17日（土）、鹿角市福祉保健センターにて、鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会「第2回地域調査」の報告集会在開催されました。換気、手指消毒、マスクなど3密対策と感染対策を徹底。秋厚労8人を含む45人が参加し、地域の課題や将来について率直に話し合いました。

秋厚労は、各地の住民運動に積極的に参加することを方針に掲げてきました。鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会の活動も、その一環として、秋厚労鹿角支部・本支部と一緒に取り組んでいます。



鹿角最大の課題は「いのち」

市民町民の会は、活動する中で「地域全体がしほみつがある今の姿から目をそらし、単に医療・福祉だけが良くなることはありえない」「住民がみずから地域をつくる必要がある」と考えました。

平均寿命 県内最下位

調査によって、鹿角市の平均寿命が数年前には県内最下位だったと判明、「鹿角最大の課題は、いのち」としました。

原因は、①今の日本が基本的に「生きづらい」社会である、②秋田市一極集中・何でも合併」を軸にした地方行政、③地域の縮小を感じ「生きる意欲」を見出しにくい、④人の優しさが「ガマン・あきらめ」等に転じた、としました。

地域で医療を支える一環として

鹿角地域でお産が出来なくなったことに関して、市民町民の会は「住民が地域のコンセプトを考え、共感する医師・助産師を求める」



報告集會に参加した住民と市民町民の会と鹿角支部の方々

定期的に住民が話し合う場が必要

報告後、参加した人どうして自己紹介をし、全体の話し合いへ。



参加者どうして活発に意見交流

「みんなでやれば何か出来るんじゃないか、と気づいた」「色んな団体が手をつなぐことが大事」「定期的に住民が話し合う場が必要」など、徐々に話が弾んできます。

「商店街で高校生が気軽に買い食いし、おしゃべりできる場所をつくってはどうか」「交通手段に関するアンケートをして、運転ボランティアにつなげられたら良い」など、率直に意見が交わされました。

精神科常勤医の赴任についても「精神科のお医者さんが来てくれて安心した」「優しく指導してくれて、家族の具合が良くなった」など、喜ぶ声が出されました。（秋厚労 奥井明子）

1年半ぶりに厚生労働省交渉

現場の踏ん張りに見合う報酬へ

6月11日、全厚労は中執会議と連動して厚生労働省交渉をオンライン併用で実施。コロナ禍で疲弊している医療機関・医療従事者等に対する財政支援や来年度の診療報酬改定に向けて、報酬引き上げや労働条件改善に繋がる制度への見直しを求めて、財政面に絞った要求としました。

一つ目の大きな要求である「財政支援」について、厚労省は、「コロナ対策や地域の医療提供体制を維持するための財政的支援は重要なこと。総額約4・6兆円を措置し、感染拡大防止策の経費、診療報酬の引き上げ等に取り組みできた。医療機関の経営状況、感染者の状況が踏まえつつ、必要な支援について検討していきたい」と回答しました。

また国の基準としてのコロナ「特別手当」創設については、「基本的には給与や支給条件は各医療機関の経営判断、労使関係で決定してもらおうものである。ただ従事者への処遇で、診療体制に影響が生じないようにすることは重要で

あり、医療従事者の処遇改善等に活用できる補助金を活用してもらいたい」と回答しました。全厚労からは、「財政支援の予算には感謝しているが、一方で医療収入が下がっているために、本来の一時金が下げられている。特別手当も全国で同じように患者対応しているのに、もらえるものが違うという不満がある。今年度も補助金交付は想定されるが、年度末決算が出るまで待つて欲しいという経営が多い。夏の一時金が下がってしまったら、昨年と同じように離職が出てしまうのは必至だ」と訴えました。

さらに岩本委員長は「支援金で赤字になっている病院でさえ、コロナ収束後に患者が戻ってくるのか、不安心理が働いている。しっかりと人に配分されるような仕組みを作って欲しい」と話しました。「慰労金」の継続支給について、岐阜の西田さんは、「昨年の慰労金には感謝している。自己犠牲で従事してきた者のモチベーション維持に役立つ。現在でも勤務調整や外出



zoomを併用し、現場からの意見・要望を訴えた

地域医療構想でベッド減らしを進めている問題で、厚労省は、「地域医療介護総合確保基金は、将来の医療需要に見合った対策への費用であり、病床削減を推進するものではなく、自主的に減らして頂いた病床数や統合などで減った病床に充てて支援をするもの」と説明しました。

ベッド減らしより 余裕ある体制を

その後、2つ目の大きな柱である「診療報酬」の引き上げと制度改善の要求についてやりとりを行いました。今後の新興感染症発生時への対応について、厚労省は「医療提供体制については、感染拡大時にも機動的に講じられるように、各県の『医療計画』の中に、感染症対策を入れる医療法改正が行われたところ。病床過剰地域であっても、臨時の医療施設設備など迅速に整備できるようにしていく」としました。

世界的に遅れた「適正」？ 基準引き上げを

また人員配置基準の引き上げや、重症度、医療・看護必要度の改善、委員会・研修の診療報酬算定、認知症対応への加算などについて、厚労省は、現行制度の説明とともに、「皆さんの意見を踏まえて、『適正』な配置・基準となるように中医協で議論していきたい」と従来通りの回答に留まりました。

要請書・詳細は
こちら

8日、義務化、まだか！ 全国組合で人事院要請

6月16日、21年夏期・全国組合協議会人事院要請行動が行われ、コロナ対応職員の処遇改善やメンタルヘルス対策の強化、夜間看護手当引き上げ、夜勤制限の義務化、人事評価制度の中止など10項目の要請を行いました。（要請書はQR参照）

全厚労からは岡野書記次長が参加し夜勤制限について、「平均8日」では夜勤回数に偏りがある。コロナ以前から夜勤回数を守ることの難しい人員であるにもかかわらず、コロナ病床確保のための病床・病棟の再編等で慣れない業務が増え、労働強化がより一層顕著になっている。退職者が増えさらに夜勤回数が増



えるといふ悪循環になっていくと訴えました。国立や自治体病院の賃金・労働条件は人事院勧告から大きな影響を受けて決定されます。厚生連病院にも人勧準拠を公言している病院や、賃金・労働条件の決定に国立や県立病院の賃金・労働条件を加味して考える経営者がほとんどです。



要請書・詳細は
こちら

労働条件改善を 診療報酬で保障して

労働条件を診療報酬で規制するという要求については、「看護職の負担軽減が重要な課題であることは認識している。まずは使用者の労働時間管理、適切な勤務・雇用計画で実現されるもの。診療報酬では、夜勤の負担軽減に資する評価や増点を行ったところ。

夜勤上限を64時間にすることについては、看護職の確保や地域の状況を見て検討したい」としました。秋田の中村さんは、「地域の実情ということで、病院任せになっている。夜勤72時間ルールが足枷になって看護師が疲弊している状態で、上限規制をかけないと9回がベールラインになってしまう。人が増えないし、いる人間で回していこうということになる。68時間でも良いので、一歩でも前進を」と訴えました。

最後に岩本委員長から、「厚労省も激務で頑張っていることを知っている。医療現場も疲弊している。労働者の切実な意見を受け止めてもらいたい」として交渉を終えました。

「言いたい劇場」



高知の由比さんも「災害時

また人員配置基準の引き上げや、重症度、医療・看護必要度の改善、委員会・研修の診療報酬算定、認知症対応への加算などについて、厚労省は、現行制度の説明とともに、「皆さんの意見を踏まえて、『適正』な配置・基準となるように中医協で議論していきたい」と従来通りの回答に留まりました。

頑張る仲間 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第164回は福島と三重にお願いしました。



福島 遠藤剛司さん

今年度より、福厚労青年部の青年部長を務めさせていただいております遠藤剛司です。コロナウイルスが蔓延しており、活動の自粛や中止等、NOと言うのは簡単です。ですが、こんな状況だから出来ること、こんな状況になったから出来ることを考え実行していく必要があると思います。全国的にも若い世代の離職や未来ある命を絶つ人が増えている現状で、少しでも希望や夢が持てるような交流の場を設け、厚生連の活性化に繋がるよう活動していきたいと思っています。



三重 館久代さん

三厚労で中央副執行委員長2年目の館久代です。看護師として働いていますが、組合役員になるまでは組合活動について何も知らずにいました。役員1年目で全厚労医療研究集會に参加させていただき、他県の人達と意見交換を行う機会がありました。意見交換をしたことにより自分自身の考え方も変えてみる必要があると感じたと同時に集會への参加の重要さが分かりました。

昨年コロナで活動のほとんどがwebになってしまいましたが、コロナが落ち着いたときには全厚労の集會などに参加して活発にみんなと意見交換ができればと思います。これからもよろしくお願いします。

- ヨコのカギ
- 暑さしのぎに涼しい地に行くこと。……地。
 - ウナギ料理といえど?
 - インドの精神統一修行
 - 刺身に添える海藻や野菜など
 - ちり。くず。……箱
 - 温度などが急上昇することを魚に例えて?
 - ……姫と彦星の七夕祭
 - まじること。公私……
 - 千島海流とも言います
 - 草冠に斤と書いて?
 - 英語ではノクターン
 - 「蕎麦」の読み方は?
 - 鳩が……鉄砲を食う
 - ある人は48もあるとか
 - 折れ曲がること
 - 壁を塗る職人
- 当選者は3・6倍(クロスワード・聞かせて、読者の声計15名当選)でした。

ザククロスワード

出題▶モロズ三勝

1	2	3	4	5
A		🍉		B
6		🍺	🌿	8
9	10	11	👤	
👤	12	🍻	13	14
15		16	👤	17
	18	19		20
21	22	23	E	24
C		🍻		
25			🍻	26
				F

答 A B C D E F

- タテのカギ
- 投……開……浮動
 - ……伝……
 - 「暗夜行路」の作者
 - 板の上に乗っているのもあります
 - トンボの幼虫
 - 不思議、……きてれつ
 - 牛や鹿にある突起物
 - 五輪発祥の国
 - 隣の座席
 - 一生懸命にやる人
 - 音波が伝わる速さ
 - 赤塚不二夫の「……く
 - ん」は六つ子の長男
 - ウグイスの絵が描いてある花札
 - 負けそうな苦しい戦い
 - 賞……。「罪と……」

締め切り:2021年7月末日 消印有効
あて先:〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5-6F 全厚労 ニュース係

読者の声

新しい組合が立ち上がったのは良いことだと感じました。組合活動の縮小傾向のある昨今、簡単なことではなかったと思います。各県連等の情報の掲載いつも楽しみにしています。(富山)

ハワハラの記事を読みました。仲間として助け合いながら仕事をすべき所を、傷つけ、けなして追いやってしまう…それも病院という最も人を苦しめる場所があるところではなかったかと思う。みんなが孤立して切ない思いをしているところ、優しく、温かくいてほしいですね。(福島)

私の住んでいる自治体では、高齢者の接種についてネットや電話予約を採用せず、自治体があらかじめ接種日時を決めて各自にはがきで通知をしました。高齢者の方は接種日が分かり安心していました。(OG)



聞かせて・教えて!のコーナー

☆4月号で募集した「聞かせて・教えて」の結果発表☆
質問1 4月号で一番興味があった面は?
一番票が多かったのは、広島の新組合立ち上げの写真が載った1面が20票、次いで神奈川パワハラ問題についての記事と医労連共済紹介の2面13票、4面6票、3面5票でした。
質問2 コロナ禍での休日の過ごし方は?
「テレビ・映画・ドラマ鑑賞」と「睡眠・のんびり」が同票の15票でした。「ショッピング(ネット含む)」、「家事」も同票で7票の結果となりました。その他にも、コメントで「森林浴」「子どもと家でリアルごっこ屋さん」「オンライン研修会に参加」「断捨離してリサイクルショップで換金」など様々な休日の過ごし方を紹介していただきました☆

さて、今回の「聞かせて・教えて!」は

- 質問1 6月号で一番興味があった面は?
A=1面 B=2面 C=3面 D=4面
質問2 毎日のニュースをどこで得ていますか?
A=新聞 B=ニュース番組
C=ネットニュース D=SNS(Facebook等)

右のQRコードから全厚労ホームページを開き、「資料・データ」のページから過去の全厚労ニュースを見る事が出来ます。



読者の声、聞かせて・教えて、クロスワードはすべてQRコードよりスマホから投稿できます。氏名・住所・希望景品(図書カード又はクオカード)は必須事項です。投稿ページをリニューアルしました。引き続き投稿お待ちしております。

教宣部のつぶやき

現場から変えていこう! 看護委員会 成のポケットマニアル。実はメール相談用のQRコードが印刷されなかったミス(一見気付かない程)があったので再度作り直した。最初のもも廃棄せずに全厚労以外でも活用したいという労組があつて広がっていることに感謝。みんな声を上げれば職場や社会は変わる。しっかり休もう!一定時で帰ろう!(MT)